

人権作文

小学校上学年

【市長賞】

自分を信じて 一歩ふみだそう

明倫小学校 六年 森田 華菜

りできなくて、さみしくて気持ちが落ちこんでしまいました。朝になるとおなかが痛くなったり、頭が痛くなったりして、びびりたらよいのか分からなくて苦しんでいました。お母さんは、

「無理しないで、少しの間、学校を休んでみよう。」

と言ってくれました。

私は五年生の時、学校に行くことができなくなりました。理由は、おじいちゃんが急に亡くなって、人の死を初めて知ったからです。ショックで、さみしさや悲しみの中、たちなおれなくなり、食事がとれなくなって、人の言葉に傷つくことが多くなりました。そんな私のそばにいつも一緒にいてくれた兄も卒業してしまって、また一人ぼっちになったような気持ちになり、心の中に大きな穴が開いた感じになりました。学校でも、友達と一緒に楽しんだり笑った

私は、学校を休むのがいやだったけど、思い切って休んで自分の好きなことをさせてもらったり、お兄ちゃんたちやお父さん、お母さんも交代でそばにいてくれて、私が行きたいところへ、色々連れて行ってもらったりしました。

学校にいけない間も、先生が家に来てくれて、友達からの手紙を持ってきてくれました。先生は、いつも

「無理はしないでいいからね。」

「男子も、女子も、はなちゃんのこと心配してたよ。」

と、言っているうちにいました。

先生が持ってきてくれた手紙には、

「一緒に、遊ぼうね。早く、元気になってね。

待っているよ。無理しないでね。」

と、やさしい言葉が、たくさん書いてありました。

その手紙を読んで、とてもうれしくて、返事を書いて渡したいという気持ちが出てきて、少しずつ学校行ってみよう、と、一歩ふみだしてみました。

別室登校の時に、朝から友達が会いに来てくれて、休み時間になると、部屋がぎゅぐゅぐゅになるくらいの人数になって遊んでいました。手紙を書いてくれたり、私が作った物をたくさんほめてくれたり、遊びに来てくれたりした友達のやさしさがうれしくて、夏休み明けからは「教室」に行ってみようかなと

と思えるようになりました。不安な気持ちもあったけれど、家族もたくさんはげましてくれました。

新学期の初日は、友達が一緒に教室に入ってくれました。先生や友達も喜んでくれて、いつもおなじごとになって、それからいろんな行事に参加するようになったよになりました。友達が先生、家族や周りの人に支えられて、少しずつ自分を取りもどすことができてきました。

たくさんの方のやさしい言葉に、元気づけられました。私も困っている人に、やさしい言葉をかけてあげられるようになりたいと思います。

そして、たくさんの方を元気づけられるような言葉を、たくさん遣っていきいって決めました。

やさしい言葉が世界中にあふれて、みんなが幸せに過ごせるようになってほしいです。

【特 選】

ぼくの大好きな おばあちゃん

古枝小学校 四年 松尾 颯馬

ぼくのおばあちゃんとは、じいさんが悪い人、「じいせめ」をいいます。ひびが悪いので、しををいって歩いたり、歩行器を使ったりしています。

おばあちゃんも買い物に行くと、ぼくはトランクから歩行器を取り出して、車からおろすのを手伝います。買い物をはじめ、ぼくは何を買っているのかを聞いて品物を集めます。ぼくがおばあちゃんといえる時は、ぼくが助けてあげないといけないと思います。

おばあちゃんね

「ごいせめいせめ、あごせめい」

と言っています。

おばあちゃんとお母さんとぼくと、旅行に行ったことがあります。そのホテルには、エレベーターも車いすもありませんでした。ぼくは、とってもがっかりしました。部屋が二階だったので、おばあちゃんとは階段の手すりにはみついて、必死に登っていました。

「体が不自由な人も、安心して泊まれるホテルが、いっぱいあったらいいな。」

と思いました。

おじいちゃん、おばあちゃんが、買い物したじいさんと食べに行ったり、気軽に行ける場所があると、もっといろいろな所に行けると思います。

スーパーなどに行く駐車場に、「思いやの駐車場」があらう。おばあちゃんとは、「じいせめ」をいってのじい

【特 選】

１つ１つの行動や言葉

北鹿島小学校 六年 伊東 陽

「パーキングパーミット」というステッカーを持っています。その駐車場でいぬを、近へくても便利です。おばあちゃんは、よくいぬで買い物に行きます。いっぱい買い物しても近いので、本当にいいと思います。

ぼくは、いまっているおじいちゃんやおばあちゃんがいると、ぼくができることだったら力になりたいと思います。例えば、重い荷物を持っている人がいると、荷物を持ってあげたり、階段を登っている人がいると、後ろからささえたり、いろんな人の力になれるように、いろいろ考えていきたいです。

やわしい気持ちをもって、いやな顔をしないで、相手の気持ちを考えていこうと思います。

あなたは、いじめにあっている人を見たらどうしますか。助けるって言っても、実際は「私がいじめられるかも、こわい」と思って助けることができないかもしれません。いじめは、その人の心に一生の傷をつくらせます。絶対にあってはならないことです。いじめに関するニュースには「自殺」という言葉が目に入ります。いじめは、自殺にだって追いこめる「きょう器」です。だから、あってはならないと思います。

いじめは、いろんなものがあります。インターネットでは、言葉。実際は、暴力などもあります。相手を苦し

ませぬいじめ。

私は、年上の人や同級生から、いじめのようなものがあったことがありません。それは、スイミングスクールに通っていたことです。同級生の友達といっしょに、いじめにあっていました。いやなあだ名をつけられ、とても苦しかったです。友達の一人は、そのことでスイミングをやめました。私は、その時のことを、せん明におぼえています。いのちのいのちいじめは一生の傷です。いじめは、軽く扱われるべきではないのです。その一言一言が、いのちを傷つける側の心を押しつぶしていくのです。もう、いのちがいじめがエスカレーターで上っていく、きつたきつた状態です。私の場合、いじめは、いじめられっ子の女の子が主でした。いじめられていくとき、だだかきまをわくのくすくすを、それ

の人の最大の光になると思います。「助けられる」といっことは、これくらい大きなことです。見て見ぬふりをせず、手を差しのべてみてほしい。

私は、いじめのことがあったので、今日の自分を振り返る時間があります。

「あの言い方はだめだったかな、あやまっていたかな。」と自分の行動や言葉を振り返るようになっていきます。けんかについて話すとき、

「いじめ」

としゃべって仲間おらしたら、自分が言わなくていいとは言わないように、どうやって言葉を返すか考えたらいいです。

「自分が親切にしたら、必ず返っていい」

と、いっしょにお父さんが言っていました。こぼれいじめ

同じだと思います。自分が嫌なことをすると、自分にも

いつか帰ってくる。私も心が押しつぶされそうになった

けど、する方もいつか心が押しつぶされそうになると思

います。いつか気づいても、今気づかないという意味がない。

だから、友達と話す時は、言葉には気を付けています。

身近な人たちも笑っていてほしいと思います。

私は、見て見ぬふりをせず、勇気をだして手を差しの

べるやさしい人になりたいです。



【準 特 選】

おじいちゃんは 歩けない

浜小学校 四年 山口 航輝

ぼくのおじいちゃんとは、ひんぱん歩けないけどもかせん。

だけど、だれよりもやわらかくて、とっても強い スーパー

おじいちゃんなのです。

ぼくは、学校が終わるとおじいちゃんの家に戻ります。

「ただいま・・・おかえり・・・」

いつも笑顔で、ぼくたちの帰りを待っていてくれるおじいちゃん。今日一日、学校であったことを話すとつれづれに聞いてくれます。そむだは、心が温かい気持ちになります。

おじいちゃんとは、うつぜん病気になるから、ひんぱん歩けないけどもかえなくなりました。お父さんが、まだ小さい

子どものときで、家族みんなとても悲しかったそうです。

もし、ぼくがおじいちゃんのように、とっせん歩けなくなったら考えてみました。歩いて、学校に登校できない。

昼休みに運動場で友達とサッカーやおにごっこもできない。仲良しな弟といっしょに遊ぶこともできない。そして、大好きな野球もつづけることができない。できないことはかろがふえて、悲しいなみたがたくわんおんつになりました。

でも、おじいちゃんは強かったのです。大切な家族、たくわんの友達に支えられて病気を治し、元気になった今も一人で歩けいよはできないけれど、それ以外のことは、自分で何でもできます。車いすに乗って家の庭で野菜を育てることも、ぼくもキャッチボールする時も。だから、ぼくもおじいちゃんのように、強い人になりたいと思います。

ぼくは1年生のとき、野球部に入学してからずっと

リチャーをしたいと思っていました。今まで知らなかったことだけど、実はおじいちゃんもリチャーだったのです。球も早く、上手なリチャーだったとおぼあちゃんから聞きました。ぼくが試合でヒットを打ったとき、三振をとったとき、自分のように喜んでくれます。たくわん応援してくれてる感じがします。だから、もっともつがなばるうと思います。ぼくは、おじいちゃんに負けないようなリチャーになりたいです。

最後に、おじいちゃんは、だれかに肩をからせておんてもらって、ゆっくろ歩けいよはでできます。大きくなったら、今度はぼくが、おじいちゃんをわんてい、いっしょに歩きたいです。「みんな、わんてあつて生きたい。」とても大切なことを、おじいちゃんに、ぼくに教わってくれました。

【準 特 選】

いろいろな人が いていい

七浦小学校 四年 井上 聖葉

私は、夏休みに『好きなことがな〜こと』という本を読みました。この本を読んで、私はいろいろなことを考えました。

私や人は、それぞれ好きなことや苦手なことがあり、好きなことや苦手なことの量も人それぞれです。私は勉強やスポーツは苦手だけど、工作や料理、絵をか〜ことが好きです。さいきは、苦手な勉強やスポーツも少しずつ好きになってきたので、また、好きなことがふえたらいいなと思います。

好きなことや苦手なことが、本にはたくさん書いてあっ

て楽しかったです。みんなの苦手なことが、自分にとっては好きなことだったり、相手が好きなことが、自分にとっては苦手だったりします。好きなことや苦手なことがあるのは、す〜い〜だし、おも〜い〜だし、好きなことや苦手なことが、どちらも持つてそんはないと思いました。

私は、これまでそういうけいけんがなかったけど、相手のすきなことが苦手なことが知れたら、もっと友じょうが深まると思いました。友だちに好きなことや苦手なことを聞いて、もっとその人を知れるといいなと思います。

「好き」という気持ちだけでなく、苦手という気持ちも大切なんだなと思いました。その気持ちは、時々ふえたりへつたりするからおも〜い〜です。

好きなことや苦手なことの他に、「わかる」「い〜い」「わるい」「い〜い」も、わがびると思います。例えば、あ〜い〜

きめるけいいはできない。あれは苦手だけけいは好き。

じつじつじつじつが人間にはあると思います。それが一人ひとりちがつておもしろいと思いました。

私の友達にはいろいろな人がいます。きっと、それぞれ好きなことや苦手なことがちがつと思います。それでも、私は友達が好きです。

私は、友達の好きなことや、苦手なことも大切にして、仲良くしていきたいと思いました。



【準特選】

心の中でのガッツポーズ

能古見小学校 五年 澤野 瑛太郎

ぼくは、「日本代表男子バレーボール」を見ていた時、選手が高く飛んでアタックを決めたり、かっこよくサーブを打って点を入れたりする姿にあこがれました。

「あんなぶつに、かっこよくバレーボールをしたい。」

ぼくは、学校のバレーボール部に入部したいと思いました。家族に話したところ、

「女子ばかりだし、今、入部しても、おいつけそうっ。」と心配してくれました。でも、ぼくは、バレーボールがしたいという気持ちが強かったので、「大丈夫。」と言ってバレーボール部に入部しました。

次の日から練習が始まりました。ぼくは、初めての練習はとてもぎんちょうしました。サーブの練習で失敗してしまつた時、友達から

「ボールの斜め下を打つと、入りやすいよ。」

とアドバイスしてもらいました。その通りにつてみると、ネットの向こう側に入れることができました。ぼくは家でもバレーボールを練習しました。でも、なかなか上達しないなど不安になりました。しかし、「コーチやかんとくから」「よくがんばってるね、ボールが飛ぶようになったね。」

とほめてもらつて、がんばりをみとめてもらつたように嬉しかったです。入部する時の家族の心配は、自分にとって全く必要ありませんでした。男子一人でも、かんとくや「コーチ、部員やぼく者さんたちのおかげで、気にせず楽しくバレーボールをすいじやができました。そいじは、

自分の努力も必要だけど、周りの助けがあったからこそが、

バレーボールだけではなくて、バレーボール部で学んだことを、グループの中で一人ちがう人や、弱い立場の人がいたら、手をさしのべたり、声をかけたりして助けたいと思います。

練習相手をしてくれた、りあさんやまどかさん、そしてバレーボールのテクニックを教えてくれた「コーチやかんとくのおかげで、試合でもサーブを入れて得点を取ることができたときは、「やったあー」と心の中でガッツポーズをしました。この嬉しい気持ちをわすれずに、なにこともチャレンジしたいと思います。

そして、周りの人たちへのかんしゃの気持ちを、わすれないようにしたいと思っています。

【準特選】

ぼくの取り組み

鹿島小学校 六年 首藤 春貴

「人権って、知っていますか。」

人権とは、人が生まれながらにして持っている、人間らしく生きる権利の事です。

そこで、考えました。

人間らしく生きる権利を、世界中に一人ひとりが持つことができないようにするには、何が必要でしょうか。

そのために、まず戦争をなくすことです。戦争は、罪のない人達が殺されたり、けがをさせられたりします。誰かに、突然命をうばわれるようなことは、あってはいけません。それに人権侵害です。

次に、いじめをなくすことです。いじめというのは、自分がされたらいやなことを相手にすることです。自分には、そんなつもりがなくても、相手が苦痛をかんじていたら、それは、いじめといふようになります。いじめられた相手は、悲しんだり学校に行くのもきつくなったりします。生きる気力をなくしてしまうといじめは絶対になくすべからず。だから、自分がされていやなことをしない、言わないとよいと思います。

そして、けんかをなくすることも大事です。けんかには、一種類あります。言葉で行うような言い合いと、暴力で行うけんかです。どちらも相手を尊重してないことが原因と考えられます。言い合いは、その場の雰囲気でも冷静な判断ができれば思わず言うってしまっているようなこともあるかもしれませんが、しかし、相手に対して、尊重したら認めたりして

いわけんかはおいらなと思います。相手を尊重していいば、相手が怒るような言い方をしないはずです。

そむび、ぼへいぶとなにうぶができものか考えてみました。

ーし目は、相手のいよをほめようと思います。すういといよをこえる友達をみかけたら、素直に

「○○くん すういね。」

とほめます。相手のよさを認めたら、ほめられた人が嬉しただけでなく、そこを目標にして、自分自身も伸びようとするかもしれません。

ーし目は、周りの人に声をかけるいよです。困っている人を見つけたら、声をかけて一緒に解決の方法をさぐります。授業中に問題が解けなくて困っていたら、一緒に考えます。一緒に遊ばない声をかけるいよもします。一緒に遊び、楽しい時間を過ごせば、相手のいよを知るいよにもつ

ながる、相手の気持ちも満足になると思います。相手を理解し尊重すれば、少しずつゆるゆる合いが生まれ、けんかがなくなるだろうと思います。

ぼへは、今まであまり人権について深く考えたことがありませんでした。自分たちとは、あまり関わりのないことだと思っていたのです。しかし、調べたり考えたりしてみると、とても身近で大切な事だと分かりました。ぼへの少の取り組みで、世界が平和になると考えたらわくわくします。

ぼへの取り組みを知って、一緒に取り組んでくれる人が、増えるといいなと思います。

【準 特 選】

愛の形は 人の数だけある

明倫小学校 六年 増岡 帆波

みなさん、「LGBTQ」という言葉を知っていますか。

最近よく耳にしますが、意味をあまり知らない人もいます。と思います。まず、「L」はレスビアン（女性同性愛者）、Gはゲイ（男性同性愛者）、Bはバイセクシャル（両性愛者）、Tはトランスジェンダー（性同一性障がいを含む心と出生時の性別がちがう人）、Qはクエスチョニング（性別が定まっていない人、またはあえて決めない人のことをいいます。ほかにも、様々な思いを持つ人が、いろいろいいます。

私は「LGBTQ」という言葉を知るまでは、体が男性の人は心も男性、体が女性なら心も女性、男性と女性の恋愛が

ふつうだと思っていました。そんな私が「LGBTQ」という考えるきっかけになったのは、好きなユーチューバーの方が、自分はゲイだと発表している動画を見たときでした。そのときに日本には「LGBTQ」の方がもっといるのが気になって調べてみたところ、十人に一人ほどいるといわれているそうです。予想では、少ないのかなと思っていたけど、意外と多かったことにおどろきました。

また、いろいろ調べていて疑問に思ったことがありました。それは、なぜ日本では同性婚が認められていないのかという疑問でした。日本では、同性同士で愛し合うことは自由になっているので、結婚できなくてもいいのではという意見もあると思います。ですが、結婚していないと相續できない、同じ国で暮らせない、命に関わるようなときなどはいられない、子どもを育てても他人になるな

ど、様々な問題があるのです。

このように、同性婚がめとめられていないことで、困る
じじがたぐわんあります。愛の気持ちは同じなのに、性別
だけが理由で結婚できないのは不平等だと思うし、実際に
憲法でも禁止しておらず、むしろ、望んだ人と結婚するこ
とは、憲法が保障する基本的人権であり、同性婚をみとめ
ないじじこそが憲法違反になるのです。つまり、憲法では
二人の合意があれば結婚できるのです。ですが、反対意見
もあります。その中には、今、問題になっている少子化と
いう意見も目にはしるひです。でも私は、異性同士で結婚し
ても絶対子どもをひくる訳ではないし、同性同士でも女性
でもでも、異性同士の子どもをひくのかたはちがう形だ
わい、子どもは産むじじがたはちがう、男性であれば養子な
どをひくじじがたはちがう。まあ、異性愛者の方が、同性

婚がめとめられたからといって、同性愛者になる訳ではな
いし、それと同じで、同性愛者の方が、同性婚が認められ
ないからと、異性愛者になるじじはあつません。それに、
オランダやデンマークなどは、同性婚をみとめたことで出
生率が上がつてゐるのです。

じじまで、「LGBTQ」「同性婚」について、まゆめしきま
した。そこで私が思ったじじは、女らつて、男らつてな
のへん見にとらわれず、自分らつて、その人らつてを尊重
するべきだと思います。「LGBTQ」の方だになかまひず、
私たちも自分らつて生きる権利があります。自分の意見は
かりをおしつけねば、個性は消えてしまつます。おたがい
に理解し、尊重しあふじじで、全員が幸せに暮らせるようじ
なり、世界がもっと明るくなると思つます。

